

令和4年度 第1回 牧之原市総合教育会議

日時 令和5年2月13日（月）

14時～16時5分

会場 市役所榛原庁舎 4階会議室

●出席者

杉本基久雄市長

橋本勝教育長（牧之原市教育長、牧之原市菊川市学校組合教育長）

【牧之原市教育委員会委員】

吉住幸子委員、寺井ゆみ委員、池ヶ谷祐太委員、渡辺彩子委員

【牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員】

近江賢市委員、松浦啓二委員、山内麻千子委員、八木香代子委員

【事務局（総務部総務課）】

大石総務部長、源間総務課長、瀧口

【教育委員会事務局】

内山教育文化部長、佐々木教育総務課長、杉田学校教育課長、水野学校再編推進室長、永野社会教育課長、大石スポーツ推進課長、植田教育総務課主幹、宮部学校再編推進室指導主事、本目教育コーディネーター、田中学校教育課主席指導主事、野村学校教育課指導主事、大石学校教育課指導主事、

1 開 会

○源間総務課長

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、総務課長の源間と申します。よろしくお願いいたします。

ただ今から、令和4年度第1回牧之原市総合教育会議を開催させていただきます。はじめに杉本市長より挨拶をお願いいたします。

2 市長挨拶

○杉本市長

本日は令和4年度第1回牧之原市総合教育会議ということで、大変お忙しい中、また足元の悪い中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から牧之原市の教育行政につきまして格別のご理解ご協力を賜っておりますことに、感謝申し上げる次第でございます。着座をしてお話させてい

たきます。

まずコロナの関係ですが、第8波も収まりつつありまして、急激に減っています。国では5月から2類から5類に下げると、あるいは、今度の卒業式では、マスクを外しての参加を認めるというようなことも行われ、だいぶ、ウィズコロナと言いますか、コロナと共存するといえますか、そういった時代が変わってきています。これまでは、学校に関して、休校、臨時休校等があつて、非常に判断が悩ましいときもありましたが、これからは共存していくということですので、そういう中で感染防止を継続してやっていかななくてはいけないというふうに思っております。

また、そうした中で先週は本当にびっくりするような嬉しいニュースが飛び込んできました。昨年の川崎幼稚園のバスの事故、それから年が変わってから中学生の事件でありますとか、暗いニュースで牧之原市が全国に名前が出るようなことで私も辛かったのですが、先週末には、牧之原市出身の植田和男さんが日銀の総裁の候補に選ばれたということです。ご両親は相良のご出身で、相良で生まれて、相良で育って結婚され、和男さんを出産して、お父さんは昔で言う電信電話公社にお勤めで、しかも、かなりトップの方をやっておられたということで、和男さんはほとんど東京暮らしだったということです。ご実家は元相良区長をやられた植田六郎さんというお宅で、そこに現在も実家があるそうです。おじさんにあたる六郎さんの話によりますと、小学校の頃、夏休みに里帰りしたときは、その頃からラジオの英会話の番組を聞いて英会話を学んでいた、というようなことをお聞きしました。約70年前の少年時代から英語が喋れなければというようなことをやっていたようです。NHKの朝ドラでもありましたが、あの頃の時代背景だと思いますが、そんな話を実家の植田さんにもお伺いしました。そんな関係で新聞では大きく報じられましたが、昨日から今日にかけてSBSが取材に入っておりまして、生家の植田さんのお宅や、和男さんのひいおばあさんになる方が前市長の西原家から植田家に嫁いでいるそうで、そのようなことから西原さんにも今日取材が入ったということで、私のところにもお昼に取材が入りましたので、本日の夕方6時15分頃流れるそうですので、是非ご覧いただきたいと思っております。

それから、本日の午前中に牧之原市将棋によるまちづくり実行委員会を開催し、お〜いお茶杯第63期王位戦の結果報告や今後に向けた取り組みということで会議がありました。こちらこれまで数々の番組等で取り上げられましたが、本日夜10時45分からテレビ静岡で、勝負メシプロジェクトでの自慢の一品が放送されます。本日は、菓子司扇子家さん、20日には甘蔵さかしたさんが放送されますので、こちら是非ご覧いただければと思います。

それから、この4月から第3次総合計画がスタートをいたします。これまで8

年間かけてきた牧之原インターチェンジ北側の高台開発の関係ですが、なかなか事業の着手ができずにいましたが、1月10日に事業認可が下りまして、先月の29日に区画整理組合の設立総会があり、事業が動き出します。8月くらいから本格的に造成工事が始まり、その後、産業施設の整備や大型商業施設を誘致しておりますので、そういった大型商業施設の建設であるとか、あるいはホテルとかそういったものについて、令和7年度から8年度の2箇年ぐらいで整備をして、令和8年度中のオープンを目指すというようなことで、かなり今までの遅れを取り戻すようにスピードアップしていきたいということで動き出しますので、ご承知おきいただきたいと思います。

それから、第3次総合計画の中にある学校再編の関係ですが、これについてもこの4年間で事業を進めていく上でのしっかりとした骨格を作っていくと、計画を作っていくということでもありますので、早ければ建設等に着工していくようなことにもなっていくかと思っておりますので、また教育委員の皆さんにも是非ともご支援を賜りたいと思っておりますので、次第です。

さらには来年度の予算はこれから発表となりますが、い~らの南側に建設しております、総合体育館ですが、これも来年3月までに完成するというので、環境に配慮し、当初約25億ほどでしたが、現在、電気料金も上がっており、カーボンニュートラルということも叫ばれていますので、ニアリーゼブと言って電力等のそういったエネルギーを、今までの2分の1に抑える、CO2の排出もそれを抑えるというようなことで、環境に配慮した体育館をつくるために3億円ほど増額し、28億円ほどの事業費を投じて総合体育館の整備を進めていきます。

また、教育委員会関係で言いますと、榛原図書館の整備についても令和5年度の着工となり3月までの完成を目指し、また、愛称募集等もしてまいりますので大いに期待をしていただければと思います。

それでは本日の会議につきましては、協議事項にありますとおり、キャリア教育を軸とした小中一貫教育について、部活動の地域移行についての2点につきまして、その内容等についてご説明をさせていただきます、ご意見をお伺いしたいと考えております。また、本日の会議におきましては、協議事項についてこの場で何かを決定するものではございませんので、限られた時間の中ではございますが、皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○源間総務課長

ありがとうございました。それでは協議事項に移らせていただきたいと思います。会議につきましては、市長が座長となることとなっておりますので、協議事項につきましては市長に進行をお願いしたいと思います。では、市長お願いい

たします。

3 協議事項

(1) キャリア教育を軸とした小中一貫教育について

○杉本市長

それでは協議事項に入らせていただきたいと思います。初めにキャリア教育を軸とした小中一貫教育についてであります。それでは担当から説明をお願いいたします。

○本目教育コーディネーター

【 新しい学校づくりにむけて の資料を用いて説明 】

○杉本市長

ただいま説明をいたしました内容につきまして、皆さんからご質問、ご意見を伺いたいと思います。挙手をしていただきまして発言をお願いいたします。

○八木委員

アースランチフェスティバルに今年度初めて審査員として参加させていただきましたが、本当にプレゼンテーションもよく工夫されていて、見ていてこっちが笑ってしまうような、明るく元気にやっている学校さんもありました。

あと生徒が作った料理の方もとても美味しくいただくことができました。

ただ、今年度3年目ということで少し感じたのですが、なかなか地元の食材を使ってこうやるということに制限があるので、出てくる料理がやはり限られてしまうというか、昨年度と同じようなものは作れないということで生徒もそれなりに努力して頑張っているとは思いますが、なかなか大変だなという印象を持ちました。

ですから、長く続けていくプロジェクトにするようなら、例えば地元の食材に限らず、お花とか何か地域で作っているものとか、そういうものでランチに限定せずに取り組めていけたら、長く続くプロジェクトになるのではないかなというふうに思いました。

○野村指導主事

審査の方、ありがとうございました。アースランチというのは、本目先生が先ほど資料で説明してくださいましたが、牧之原市のキャリア教育は三つの柱で進めていまして、地域の再発見という柱のところのプログラムというふうになっています。その目的としましては、やはり地域の可能性というものをもう1回

開拓して、そういう活動を通して、より創造的に社会と向き合っていこうということが狙いでありますので、アースランチに限ることなく、地域にある資源を開拓していくという発想は素晴らしいなと思っております。その辺は今後の課題かなと思っておりますので、またご意見をいただけたらと思います。ありがとうございました。

○近江委員

牧之原市教育のあり方検討委員会や再編計画策定委員会を通して、息の長いステップを踏んでの義務教育学校への道が着実に進んでいると感じ、とてもありがたいと思います。その中で、あり方検討委員会の中で提案された、「次代を切り拓く力」を育成する姿が少しずつ見えてきたと感じ、そういうところもとてもありがたいと思います。

当初、小中一貫教育とキャリア教育、コミュニティスクールの三つを同時並行で進めていくことが、先生方の負担にならないかと心配していました。そうした中でも着実に成果を上げられているということはとても素晴らしいと思いました。先生方はどう考えておられるのか、ということがとても気になっています。その点について、先生の感じているところを教えていただければと思います。

昨年8月8日に実施された、教育講演会・教職員研修会の報告書を先日読ませていただき、先生方がどんなふうを受け止めているのかということを知ることができ、大変参考になりました。中でも前半の池田元校長先生のお話の中の、「義務教育学校について理解できましたか？」という設問に対して、中学校の先生方全員の58%、小学校の先生方全体の79%、それから30代の先生方の64%がよく理解できた、または、理解できたと答えられています。中学校の58%、それから30代の先生方の64%ということが少し気になっています。30代の先生方は最前線で子どもたちと向き合っている先生方だと思うし、これから中心になって推進していただく先生方だと思います。ですからそのところがすごく気になりました。午後のグループの話し合いに積極的に参加できた、または参加できたと答えられた先生方が中学校では94%、30代の先生方は97%ということで、すごく姿勢が前向きなんだということがよく分かりました。養護教諭の先生方の評価はすごく高かったです。その理由は、先ほどの説明の中で良く分かりました。直前に視察研修に行かれているということで、やはり実際に行って義務教育学校の良さというものを目で見ると、こういうものなんだということで、それで100%に近い数字になったということなのでしょう。おそらく、中学校や30代の先生方は、日々お忙しい中で視察研修をして実際の義務教育学校の姿や、こういう表れになるんだとか、こういう指導ができるんだとか、そういう良さをまだ体感できていなという気がしました。校長先生だったり、教頭先生であったり

研修主任であったりが中心になって、視察に行かれています。その他の先生方もこれから中心となっていくと思うので、視察研修は是非続けていただければと思います。先生方は「あなたの描く新しい学校とは」について話されましたが、その時出された意見というのが、記録を読みますと、あり方検討委員会で出された意見と共通点がすごくいっぱいありました。それで願いは同じなんだなという印象を持ちました。そういうことで推進していくに当たって、いくつかお願いしたいことを六つまとめました。

一つは先ほどお話しましたが、先生方への理解を進める視察研修や研修はこれからも引き続き進めていただきたいと思いますということです。そういうことで先生方が本気になって取り組むことができるのではないかと感じました。

二つ目は、多様な関わりが生まれる地域に開かれた複合型の施設をつくることです。これは今の説明の内容とは少し外れているかもしれませんが、そのようであってほしいという願いを持っています。

それから三つ目は、幼児教育との連携です。あり方検討委員会の中でもよく出てきた話ですが、幼児教育との連携をこのプログラムの中に取り込んで、安心して子育てのできる牧之原をPRできるようにしていただければと感じます。

それから四つ目は、これから外国人家族や労働者は確実に増えていくと思われます。浜松市には、現在90カ国、2万5,000人強の外国人が滞在しています。多文化共生の考え方を子どもたちに育てると同時に、多文化共生の市にしていくというふうな視点も大切にしていっていただければと感じています。

それから、五つ目は、各校で素晴らしいコミュニティスクールの実践をされています。それがずっとこれから続いていって盛んになっていくと思います。それをどのように一つの学校になったときにくっつけていくのかというのはすごく難しい課題で、そこら辺をどのように解決していくのだろうかというのも大きな課題になってくるのかなと感じました。

それから最後に六つ目として、牧之原小中学校ですけれども、併設型の小中一貫教育の推進とあります。これはまだ私だけの意見ですけれども、できれば義務教育学校のモデル校として先行実践ができるようになれば、その実践が相良や榛原にできる義務教育学校の中身の充実により繋がると思います。義務教育学校は皆経験がなく実際にやってみないと分からないという部分がいっぱいあると思うので、そういう意味で先行実践できるようになればいいなと感じています。

○杉本市長

多岐にわたる質問とご意見なので、それぞれ手挙げでの回答をお願いしたいと思います。

○橋本教育長

先生方の義務教育学校への理解というのは、この前も校長と面談をしましたが、やはり先生方は目の前の子どもたちと向き合っただけでどうするかということに一生懸命ということで、なかなか将来の義務教育学校像を描けないということがありますというお話を校長から伺いました。

従いまして先ほど近江委員からありましたように、我々としては義務教育学校とはなんぞやとか義務教育学校でこんな成果を上げているとか、逆に課題はこういうところだということも含めて、先進的に取り組んでいる学校からいろいろ学んで、現場の先生方に周知をしていきたいと思っています。

他にはですね、幼児教育に関しては、もちろん大事にしていかなくてはならないし、今もその視点というのは持ってはいませんが、具体的な取組みについてはまだまだ不十分かなとは思っています。今後の課題として捉えます。外国人児童生徒は、確かに市内にたくさんいますので、一緒になって学ぶ、外国人児童生徒だけではなく、障がいを持ったお子さんについても一緒の場で学べるような教育環境というのをも整えていきたいと思っています。

コミュニティスクールに関しては、各学校で軌道に乗りつつあるので、新しい学校ができてコミュニティスクールをどう作るかではなく、この仕組みが今後育っていけばそのまま移行できるということで、今のコミュニティスクールを充実させていきたいと思っています。

牧之原小学校・中学校につきましては、隣同士の学校の利点を生かして、現在、様々な取組みをしていただいておりますので、これを義務教育学校という形にするのか、小中一貫校にしていくのかということに関しましては、学組の教育委員の皆さんとともに、今後協議していきたいと思っています。事務局から補足することがありましたらお願いします。

○内山教育文化部長

教育長にお答えしていただきましたが、視察についてはこれまでどうしてもハードのところの重きを置いた視察が多かったのですが、これからは義務教育学校の中身の話をしていきたいので、特に若い先生方に視察に行ってもらうようなことで考えていきたいと思っております。複合施設については、今、検討委員会でこれからその施設のあり方の協議に入っていきます。あくまでも学校ですので、本来の学校の教育の機能を失わない中で地域との一体感みたいなものがあれば、可能なのかなと思っておりますので、ここは来年度までに検討していくという方向になっています。

それから、多文化共生も大切だと思っておりますし、また障がい者も含めインクルーシブな環境整備、こういったものに取り組んでいく方向でいます。

○本目教育コーディネーター

視察に関してですが、現在、宮部指導主事が担当してくれています。当然たくさん行けば良いですが、そうもいきません。今年努力してくれたのは、養護教諭が夏休み中に市のワゴン車を使って、視察に行けたことです。県内はほとんど義務教育学校がありませんので、県内の小中一貫校に行きました。保健室は小中一貫校も義務教育学校でも一つなので、それから保健室だったら、夏休み中で子どもがいなくても、部屋の造りだとか、養護教諭と話ができるという考え方で、視察を計画しました。来年は夏休み中や長期休み中に、特別支援学級の部屋はどんな工夫がされているのか、視察したいと考えてくれています。また、視察した報告に関しても行きっぱなしではなく、たくさん撮ってきた写真や感想等を全部まとめてくれました。また、学校で報告会を必ずやってくれていて、ホームページにもその報告を載せるようになっておりますので、また皆さんにも見ていただけるようになっていくと思います。なるべく行った者が返すという時間を学校内でも作ってもらえるように今やっております。

それからコミュニティスクールに関してですが、今年まではディレクターさんたちが研修を自分のところだけではなく、研修会で情報交換をしていましたが、来年から会長とか運営協議会のメンバーも一緒に集まって情報交換ができる会を行っていきたいと思います。

今年は牧之原小中学校の人が相良中学校の運営協議会を見に行ったりして、お互いの取り組んでいる状況を話したりすることで仲間意識が出てきますので、そこから新しい学校を作っていきたいと思います。

現在、いろいろな繋がりも出てきています。例えば、今度3月31日には川崎小学校に、児童館の方からの依頼があって、何か運営協議会でできませんかということで、児童館でお祭りみたいなことやるのか、その時に川崎小学校の運営協議会とか応援隊、ボランティアの方が主催で、そこで綿菓子を作ったり、そこに榛原中学校の生徒ボランティアを呼んでくる、それから高校とは川崎小学校は繋がってききましたので、高校生にもお願いして一緒にお店をやってくれる人を応募してもらって、それと地域の絆づくりの方にも声をかけているということなので、段々地域が広がってきているところです。そのようなことを他のところにも紹介し合いながら繋げていってほしいと思っています。

○杉本市長

それでは、多岐にわたってご質問いただきましたが、多文化共生の関係ですけど、牧之原市には約5%を超える外国人の皆さんがいらっしゃいます。2,000人を超えています。そのような中で牧之原市では昨年度からはじめての日本語教

室ということで開催しており、今年度は毎月1回ボランティアの皆さん26人ほどに出ただいて、マンツーマンに近い形で日本語の教室を開いています。日本に来たばかりで日本語が全然喋れない小学生とか親御さんもいらっしゃいます。学校で言うと細江に集中しているようで、日本語が喋れないと学校の教育もついていけないので、いろんなトラブルが生じたりします。来年度の予算は発表前ですので、いくらとは言えませんが、新規の事業で子どもたちの日本語教室、これを来年度から取り組んでいきます。ということで、やはり今少子化の時代ですので、それから将来的に見たら海外からのそういった人手を入れていかないと日本は立ち行かないと思います。ですから、これからも多文化共生は避けて通れないですし、日本の合計特殊出生率が1.3で、韓国とか台湾も1を切っているそうです。そういったところの国は海外からの労働者といいますか、取り合いになっているそうですから、選ばれる時代だから、いくら日本が少子化になって大変だから海外から来てくださいと言っても、選ばれる国にならないと、海外からも来てもらえないというような時代が、10年、15年先には来るかもしれない。それぐらい危機感を持っていかないといけないと私は思っていますので、そういった意味で、そうした外国人の子どもたちにも優しい牧之原市にということで、多文化共生にも積極的に取り組んでいく覚悟でございます。また委員の皆様にもご支援を賜ればと思います。

○池ヶ谷委員

まず小中一貫教育を推進していくにあたって9年間あって、カリキュラムは多分いろんな教科ごとに今やられているところだと思いますが、先ほど近江委員が言われた幼児教育との連携も一つなんですけども、この9年間だけでこの人生の教育は終わらないと思っていて、何かその後のことも考えることができると、すごいなというふうに常々思っております。私は、違う市ですけれども、高校に行く機会がありまして、高校生と話したときに、中学までは何も不便なくICTの機器が入ったりだとか、いろいろ地域の連携とかが進んだりとか、そんなことをやっていますが、高校に入ってそれが続いていかない、ICTの機器も今のところ全ての生徒に配布されていなかったり、いろんな機器を使うような状態になっているというのを聞いたときに、やはりここの中学と高校の間とか、そういう間のところでどうしてもそういうものが切れていってしまったりだとかするのではないのかなと思いました。牧之原市に住んでいてとか、市内の学校に通っている子どもたちが何か系統立てて、それぞれステップを踏んでいけるような形で中高・大学等で活用できるようになっていったらいいのかなと思っています。

もちろん9年間で教育が完成されるのではなくて、そこで学んだことがその

後の人生において、どこかでああいうこともあったなとか、芽が出たりとかということも十分考えられると思っていますので、その辺の柔軟性みたいなものや繋がりというのがあるといいなというふうに聞きながら思っていました。

あともう一点がキャリア教育を軸とした小中一貫教育ということなので、キャリア教育がやはり一つ軸になっているのかなというふうに思って考えています。キャリア教育の中でアースランチの取り組みをやったりだとか、生命の防災の取り組みをやったりだとか、あと自分と仕事の価値とか、そういうことをやってくと思うんですけど、それと9年間のカリキュラムがどう繋がっていくのかというのを今後考えていけると、カリキュラムとそのキャリア教育が繋がって行って、両方のキャリア教育の方にも小中一貫の9年間を通したカリキュラムの方にもいい影響が出てくるのではないかなというふうに考えました。

あともう一点ですけれども、いろいろな取り組みが多岐に渡っていますが、なかなか市民の方に周知されていなかったりというのがちょっと気になりますので、いろんな情報の発信のツールを使ったりだとか、いろんな機会で市民の方に牧之原市ではこんな教育をやっているということを伝えられるような形で考えていけるといいなと思っています。

○杉田課長

3点いただきましたが、重なる部分もあると思います。小中一貫のカリキュラムは9年間で終わらないというところで、キャリア教育もそうですが、新しい価値を創造するとか、根本は次代を切り拓く力をとるところになります。失敗をすることであるとか、いろいろな人と関わることであるとか、新たなものを発想する中で失敗がたくさん出てくるかなというふうに思いますから、学校の中だけではなくて、地域の人であるとか、他学年の人であるとか、違う学校の人であるとか、というような学びは、学校再編の義務教育学校の方にも十分繋がっていくのかなというふうに思っています。今年の成人式のときに成人の代表の方が素晴らしいスピーチをしていただきました。あのようなこともどこか根っこに小学校とか中学校で体験したこととか、感じたこととか学んだこと等が生かされているのではないかと、そういう根っこがあって大学の学びがあのような夢に繋がっていているのではないかなと思います。

幼児教育のところもそうですが、本当にずっと繋がっていくキャリアというもの、やはり道が繋がっていくという形になるので、義務教育段階で何を身につけさせるかというのはやはり資質能力のところ、もっと極端なこと言うと挨拶がきちっとできるということも、これもキャリア教育なのです。だから教科とかではなくて、生活全般のところ、家庭とも協力し、地域とも協力し、子どもたちと一緒に学んでいきたいと思っています。

市民の方に周知というところにつきましては、今後、本当に意識をして発信に取り組んでいきたいと思えます。

○橋本教育長

委員の皆さんで今日説明した、キャリア教育を軸とした小中一貫教育、このあと部活の件もありますけども、教育委員会、教育行政が取り組んでいることが、市民一人一人にとっては、なかなか理解が十分ではないかなというところを池ヶ谷委員からご指摘がありました。その点について委員の皆さんからご意見をいただければ、参考にさせていただきたいのですが、どうでしょうか？

○渡辺委員

私は未就学の子を持つ母親としての目線から意見させていただきます。

先生方がキャリア教育の研修を受けられ、それをまとめてホームページに載せると伺いましたが、小さな子どものいる世帯では、子どもの前でスマートフォンやパソコンなどあまり使いたくない方もいると思えます。

そこで、保護者会や懇談会、支援センターなどでそのお話を聞くことができれば、より子育て世代にも伝わりやすくなると思えます。

○寺井委員

これまでも地区の説明会や広報でも周知の働きかけは、充分に行っていましたが、市民の方になかなか伝わっていないというのは感じています。私が経営している店で、再編室の方から頂いた先進視察に行ってきましたというチラシを置いておくと、若いお母さんから何コレみたいな感じで興味を示して、手に取ってくれます。

小さい積み重ねも大事だと思うし、支援センターなどの施設の、手に届く、目につく工夫も必要だと思えます。キャリア教育という言葉自体が、市民の方からは、難しい印象を持たれ、私にはあんまり関係ないわと思ってしまう感じがします。

学校再編、学校づくりの検討で学びのこともたくさん研究されて、牧之原市で頑張ってるやっていますが、私が今一つ気になっているのは、不登校がとても増えているということです。そういうケアをどのように牧之原市は考えてやっているのかということを知りたいと思えます。

今クラスの人数が35人ですが、それを牧之原市は30人にする。そうすると先生の数が多くなるので目も届くようになる。その不登校に対するケアをどう当てるか。そういうことはこれからの新しい学校を作っていく段階で、これから検討していくことなのかもしれませんが、現在でもそれはあることで、そういう

不登校に対するケアというのを今どのようにやっていくのかということを知りたいと思います。

○杉田課長

牧之原市だけではなくて全国的に、静岡県も含めてということで、本当にここ数年、コロナの影響もあるかもしれませんが、不登校の数がどんどんどんどん増えています。それこそ市でどんな取り組みをしているか、ということにつきましては、適応指導教室があるということが一つと、フリースクールと今やっただいている民間の方々があります。そこら辺のところに行くことも可というか、出席日数等に数えたりというような形で、市として以前から不登校に対して、担任の先生とか、学年主任の先生とか、養護教諭の先生とか、あるいは管理職の先生方、本当にいろいろ関わってくれています。そういうものをやはり何もやってないのではということではなくて、本当に電話も出してくれない、家庭訪問しても会ってもらえないということがあっても、プリントを置きに行ったりとか、そういうことを地道にコツコツやっているようなものを、ちゃんと記録で残しておいて、これだけのことをやっていますということは、自分が指導主事のときからです。もう7年、8年ずっとそういうことを続けています。本当に先生方がここまでやってくれているのかと思うぐらいに、本当に先生方も取り組んでいます。家庭環境であるとか、心の問題であるとか、あるいは友達関係であるとか、価値観も多様化しているものですから、以前は学校に通えないことが辛くなっちゃったとか、学校に行かなきゃいけないって、そういう価値観すら、やはり私達も持つてはいけなくなっちゃって、休むことに罪悪感を持つてはいけないとか、長い人生の貴重な必要な時間だというような捉えもしていけないと子どもたちに対しては、失礼というか、ちょっと違ってくるかなというふうに思ったりもしています。学校に来なくていいよとは先生は言えないものですから、そこら辺が難しいところですが、そんなことを考えています。

○内山教育文化部長

ご提案ありがとうございます。例えば支援センターであるとか、幼稚園とかに行っていないような子に対しては、確かに支援センターとかそういった手取りやすいところ、そういったやはり言葉でお伝えしにくいので、手に渡ると後で見られるようなこともあるなどは確かに思いましたので、早速、どんな方法ができるか考えていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

○橋本教育長

私が思うことは、現場の先生方は本当に一生懸命直面する問題に取り組んで

くれています。なかなか成果が上がらない部分も当然ありますが、ほっておかないで、子どものため日夜頑張ってくれているのがうれしいです。八木委員の発言の通り、小中一貫教育、コミュニティスクール、キャリア教育とかたくさんあるのを本当に現場の先生たちはよく受け止めて、一生懸命頑張ってくれています。大変けども、学校再編に向けてソフト面についても充実させていこうという思いを今、市として進めている姿は理解していただいていると思いますが、渡辺委員、池ヶ谷委員がおっしゃる通り、それが市民の目線に立ってみると、どうやっているのかなっていうのがなかなか分からないというところに大きな問題というか課題があるのかなと思います。我々ができる方法で保護者に向けてプリントを配ったり、ホームページにあげたりとか様々なことをしているのですが、受け取る側の問題もあるかもしれません。意識とか。今こうやってキャリア教育を軸とした小中一貫教育が現場で行われているということも理解されていないということになっているかなと思います。これでよしとしないで、学校再編に向けた取組みを大いに発信していきたいなと思っています。

また、参考になる子育て世代に向けてやることも一つの方法ですよという提案をいただきましたので、ありがたく思います。

○杉本市長

皆さんから活発なご意見いただいているので少し時間を押していますが、私からも一言お答えしたいと思います。情報の発信は非常に難しいです。行政側はこれだけやっているのに、まだ伝わってないのが分かってないと思うかもしれませんが、受ける側からするとそうは思っていない。そのギャップがあります。私はやりすぎということはないので、やはり、これでもか、これでもかと、やっていくことが重要だと思います。ですから皆さんからいろいろなアドバイスをいただきながら出していく。これからの子どもが行くところですから、保育園、幼稚園とかの子どもたちが早い子で間に合うかどうか、これから生まれてくる子ですよ。ですからもっと若い世代もそうかもしれないので、幼稚園保育園の保護者会の時間を10分でも15分でもいいと思うので、そこでお話をさせてもらう。そこで興味を持ってもらって、あと紙を持っていってもらう。ただ紙を見るというの、見ないと思います。本当に興味がないと。ですから、例えば10分くらいのビデオを作るとか。視察なんかに行ったときにビデオを見させてもらいます。そうするとすごく分かりが良いと思います。映像が入ってイメージとして視察行って新しい学校はこんなところだったと。そういうことも大事なかなと思います。10分、15分見てもらって5分ぐらい補足を説明するみたいな。そういった時間をやっぱり取る必要があるというふうに思いますので是非そこはやっていきたいというふうに思います。

それからもう一つ、池ヶ谷委員から出た意見の中で9年間やってきたことが高校に行って切れちゃうという。その地域、郷土を愛してこの地域に帰ってきて活躍したいという思いというのは繋がっていかないといけないと思います。市内に県立高校が二つありますけど、これから確実に少子化が進んでいきます。10年前に400人生まれた子どもは、現在200人です。ですから高校も選ばれる時代に10年ぐらいでなってくると思います。そういったときに、本当に今のままの環境だったら、出て行ってしまうという危険性も非常にはらんでいます。ですので、ここは高校の先生とか県任せではなくて、市としてもいかにしてこの地域の高校を選んでもらえるかというのは連携して取り組んでいかないと、これは県だからじゃなくて。そこは県との連携、それから高校の先生との連携も非常に重要だと思います。相良高校の校長はすごく積極的に、選ばれる学校にするにはどうしたらいいかと一生懸命頑張ってくれています。だから人任せじゃなくて我々も積極的に取り組まないと。それから高校になると通学の手段、市外から来る子もいますし、なかなかその足が。通学バスがないというのがネックで榛高もありましたが、現在なくなってしまいました。だからそういったので、選ばれない学校の一つになっていってしまう。だからここをどうしようかというのは高校任せじゃなくて高校の同窓会、後援会任せじゃなくて、市もしっかり関わっていく、これをやっていかないといけないと思います。

それからもう一つは高校のトイレの洋式化を県がやっと取り組んでいますが、これもどれだけのスピードでやってくれるか分かりませんが、もっとスピードを上げていかないと環境があまりにも悪いということを感じていますので、しっかりとここは連携する必要があると思います。

自分を振り返ってみて、高校の3年間において方向性が大きく変わったというか考え方が培われるのは高校の3年間だと思います。ですから非常に重要だなと思いました。

それではまだまだご意見があろうかと思いますが、時間も押しておりますので、2点目の部活動の地域移行についてに入りたいと思います。

(2) 部活動の地域移行について

○宮部指導主事

- 【 ・ 牧之原市における部活動の地域移行について**
- ・ 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】**
- ・ 牧之原市の学校部活動の現状 を用いて説明 】**

○吉住委員

今の説明聞いて、先生はやる気でいいなと思いました。部活の地域移行ですけれども、ほとんどの親が部活ってなくなってしまいうんだねというふうに言っています。部活アンケートの結果を見て、とても感激しました。

例えばどうして部活を選んだんですかって、そうしたら中学生になって新しいことに挑戦してみたかったって。中学生ってこういうふうにして思うんだなと改めて思いました。

私が今から話すことは今までの良いところなんですけれども、やはり友達と頑張った思い出とか、それから9割近い生徒が学校の部活動に対して、とても楽しいと感じているということ、それから現場の先生なんかは学校部活の良いところは、この子は勉強は全然駄目だけれども、このスポーツはすごい、だからこの子を伸ばすぞっていう感じで。教員だと子どもを全体的に見ることができるといのが、今までの部活の良いところだなと思いました。ただ、もう教員がこれ以上働くってことは、私は本当に反対です。だから、地域移行を是非うまく進めてもらいたいと思います。例えば牧之原市の場合、確かにスポーツがとても盛んだと思います。ウェーブプールもあるし、地域では、夜近くの体育館を見ると、夜バレーボールだとかバトミントンだとか、すごく地域の方たちが自主的にやっている。私は民間のエースワンというところに行っていますが、エースワンはプールもあるし、うまくあのようなところと市の学校の方と協力できれば、民間の団体も生き残れるし、うまくいくかなと思いました。

そのプランというか、こういうのはどうかなと思うんですけれども。例えば、子どもたちは学校が終わったら、まず帰る、夕食は家族と一緒にする、宿題もする、その後、地域のクラブに行つてこういうのを進めたらどうかなと思いました。

一番不安なのはそういう施設があるところは良いのですが、吹奏楽部なんかはどうなっちゃうんだろうと思います。その吹奏楽部は、まさか、あの楽器は親がとても買える値段ではないので、そういうところは学校に置くようにして、問題の先生ですが、今まで指導してくれていた教員は身分替えをして、そこで一旦先生ではなくなって、夜、そういうことをやるのはもちろんきちんとした報酬をもらうべきだと思うし、そういうふうにして何とか今の先生の説明を聞いていたら、この機会にもしかしたらこの市の、子どもたちのスポーツ、学校に変わるのとはとっても良いというふうに思いました。

このようなことを計画していくうちに、今は2校で済んでいるんですけれども、10年くらいしかもたないと思うので、その先も考えていただきたいというのと、やはり私自身も部活を学校で行うというこの感覚認識を変えないとなかなか進んでいかないのかなというふうに思いました。

○山内委員

牧之原中学校の部活動ですが現在、女子はバレー部、剣道部、吹奏楽で、男子は野球、剣道、吹奏楽とそれぞれ三つの中から選ぶようになっています。その他に陸上とか、サッカーなど外部へ通っている子は総合文化部に入りますが、人数が少ないので仕方ないとは思っていますが、やはりその中には運動や音楽が苦手な子っていうのもこの頃は結構増えているので、どの部活に入ろうかというその選択肢が少ないので、とても悩んでいるというのが現状です。これから部活動が地域移行していくということによって、子どもたちの選択肢が広がることに期待はしています。

また、違う学校の子や資料にもありましたが、他の世代、地域の方と交流することによって、学校や家庭以外に子どもたちにとってもう一つの居場所ができるのではないかと、そこも期待をしています。地域移行するにあたって指導者の確保、送迎の問題などたくさん課題はありますが、子どもたちのことを第1に考えて市や学校、私達保護者、あと地域で進めていけたらいいなと思っています。

○近江員委員

先に質問をさせてください。今、牧之原市の中学校は部活は全員加入かどうかということと、全員加入ではなかったら何%ぐらいが加入しているのかということ、それ以外の子たちはどのようにしているのかお伺いしたいと思います。

それから中学校体育連盟というのが、スポーツ系の部活ではすごく大きい存在だと思います。地区大会であるとか、県大会、全国大会とか、そういうものへの参加権については検討されているのかどうかということをもっとお伺いしたいなというふうに思います。

○宮部指導主事

部活動加入についてですけれども、市内3中学校とも現状全員加入となっております。ただ、外部に確立したクラブがあればそちらの方に所属をする、所属すれば学校の方の部活動に参加しなくても良いというふうになっております。

続きまして中体連大会等の関わりですが、来年度の中体連から、個人種目については、クラブでも参加可能になります。ただ、例えばソフトテニスとか個人で参加するとクラブとして参加してしまうと、その所属中学校の団体戦には出ることができないというような規程がありますので、4月30日までに、自分はどうするか現状の中1と中2の生徒にどうするかという判断してくださいというプリントが先日学校から配られています。

○近江委員

部活動には、子どもが一生懸命に取り組んでいます。厳しい練習をしてチームの規律であるとか、競技力をつけて成長し試合に取り組み、子どもたちも達成感を得てそのことですごく成長するという良い面がたくさんあると思っています。

ただマイナス面として、行き過ぎた指導であったり、教員への過度な負担もものすごく大きいなと思います。私は、元教員です。教員になる前は東京の電気会社で働いていて、吉住さんと同じ市にいました。教員になったときに、部活動指導に土日も出て行かなければならない現状がありました。企業では休日出勤はきちんと手当がありました。しかしそこでは、わずかの手当てが支給されるだけでした。私は、こういう世界なんだなと思いました。中体連の6月下旬から7月、8月の上旬までは土日に一切休みがなくて、大会が地区大会、中部大会、県大会というふうに繋がっていきます。そういう日は5時に起きて、6時くらいに学校に生徒を集めてという感じでした。そういう中で通知表を作って、本当にこんなに忙しいのかと思いました。

だんだんそういうことにも慣れますが、やはりこれは悪しき風習というか負の遺産ではないかと私は思っています。

だから今度の地域移行ということで、新たに改善していくことに取組まれるというのは大賛成で、是非やっていただきたいと思います。いっぺんにできなくても、今現状で活動していて、土日の活動もそんなになくやれているような部活動については、そのままでいいかなと思います。土曜、日曜の活動が入ってくる部活について、まずできる競技から手をつけていってほしいと思います。

また部活全入というのでも検討していただきたいと思っています。新たな形の部活動は自分で選ぶべきものだと思います。市内を探してみれば、それぞれの子どもたちが地域クラブで学べる場所、水泳もそうですし、それ以外のスポーツでもあるのではないかと思います。そういう場を作っていく必要もあるかなというふうに思います。できるだけソフトに、次の場面に切り替えていければありがたいなと思っています。

○寺井委員

地域移行にする設置委員会が大事にしてほしいと思うことがあります。やはり部活動の良さというのは今の保護者の皆さんもすごく感じています。部活動を切り離すという感じではなく、部活動をやっている中で、子どもたちの新しい面とか、良さとかを先生が感じる部分がなくなってしまうという心配があります。現在、外部のクラブに通っている子どもの様子を中学校の先生はどれだけ把握できているのかわかりませんが、子どもの様子を知る、連携を密に取る、そういうルート、繋がりというのでも大事にしてほしいと思います。まきのはら塾を活

用しての部活動となった場合でも活動日数に差もあるし、それもどのように移行していくのか分かりませんが、子どもの頑張りを見ることができる学校との繋がりというものをなくさないようにしてほしいなというのがあります。

○池ヶ谷委員

説明を聞いて考えたのは、まず部活動を教育活動としてこう捉えるかどうかというのが一つあって、教育活動であれば今まで通りの部活の通り、先生方が何かしらアプローチ、子どもの様子だとかっていうのを見ていく必要があるのかなというふうに思っています。僕自身は教育活動から外していく方向に行くのではないかと、そっちの方がいいのではないかとというふうに考えていて、子どもたち、先生方も忙しいと思うんです。子どもたちもすごい忙しいなというふうに感じていて、結構余白の時間を自分がどういうふうに過ごすかというふうに学校にも親にも管理されないような時間を自分たちで作っていくとか、暇な時間をどうやって過ごすかで子どもたちが考えていくことってすごい大切かなというふうに思ったりすることもあるって、教育活動というふうに捉えることで先生も生徒、子どもたちも苦しい時間になってくるのは違うんじゃないかなというふうに考えました。そういうところを検討する必要があるなというふうにも思ったことと、あと保護者の方で言うと今まで部活動がほとんど、ただとか無料のような形で考えられてきたと思うんですけれども、それを少し変えていかないといけないなというふうにして、先生方に報酬を払うにしても外部の地域に移行するにしても、今まで無料だと考えられていたものを変えていかないと、なかなか理解が進まないなというふうに思う反面、ただ中学校で、そういういろんなスポーツだとか、文化芸術の活動を体験したりという気がすごい大切だからとは言っても家庭の負担にするのではなく、補助みたいな支援ができないかなというのは同時に考えていく必要があるのかなというふうに思っています。あとこれから中学校年代のスポーツとか文化芸術活動をどういうふうに捉えるかというのを牧之原市だけで考えていくっていうのがとてもできないなと思っていて、いろんなスポーツでいうと競技段階、競技団体ですとか中体連、県ぐらの範囲でその競技だとか、その文化の芸術の活動をどんな形で持続可能にしていくのかというのは、もっと広い目で市をまたいで考えていかないと、市だけで考えていても少子化の中で人数が減っていくというところで、ただ人数を奪い合うだけになってしまわないのかなという心配があるので、もっと広い目で市をまたいで連携して競技を続けていったりだとか、何か新しい競技だとか、そういう文化芸術活動に触れ合う機会をどうやって作っていくかということを考えていかないと、その部活とか中学校年代のその体験の部分というのをどうしたらいいかなというのが見えてこないというふうに感じました

ので、検討会をもちろん作っていくと思うんですけども、その中でいろんな団体がこれから先、その競技であるとか、文化芸術活動をこう伝えていったりとか、続けていくためにどうしたらいいのかということが必要じゃないかなというふうに思いました。

○松浦委員

自分が PTA の頃からずいぶん時間が経ってしまったものですから、現状というのをちゃんと知っているわけではないですけども、私たちの頃には外部指導者っていうのも入れるようになった頃で、1人お願いをして、普通の日でもその方の仕事が終わって暇なときは、学校の方へ来ていただいて、ちょっと指導していただいたり、休みの日は行っていただいたり、僕も頼んだ側だったものですからそちらの方へ行ったりして、お休みの日は試合なんかもあれば先生を乗せて、父兄の方も来てくれれば行っていただいたり、PTA もやっていて、なかなか大変だなと自分でやっていると思いました。先生も休みの時にずっと来ていただいて、ずいぶんお世話になりました。現状やっていた時でも、PTA って先生のことまでは考えてないというか、そういう形で過ごしてしまったんですけども、時代もどんどんこういうふうになってきているものですから、それは仕方ないと思うんですけど、先生でやりたい方も中にはいるのかなっていうのもあるんじゃないかなと思います。子どもたちと触れ合うっていうか、あんまりきちっと割り切っちゃうといろいろなことで難しくなってくるものだから、それを上手に検討委員会でやっていただければいいかなと思います。

当然そういう先生にはそれなりの報酬じゃないかもしれないですけども、何かの名目でお返しできるような形も、これからは必要じゃないかなとか、あんまりきちとしたものに考えないように緩やかにうまく、そういう善意といいますか、誠意といいますか、そういうのも汲みながらやれるようになれば、いいかなと思います。

○杉本市長

それでは時間の方も迫ってきましたので、最後に教育長、総括でお願いします。

○橋本教育長

今なぜ地域移行なのかについて、委員の皆さんにご理解をいただけたと思います。時代の要請というのかこういった状況になった中で部活をいかに持続可能なものにしていくか、委員の皆さんからこうしたらいいのじゃないかというご提案、ご意見をいただき、ありがとうございます。

部活に関して子どもたちや保護者それぞれ望むものが違うかなと思います。

スポーツとか、あるいは文化的な活動を楽しむっていうところに力点を置いている子もいれば、もっと上を目指して、県、全国出場、そういうところを目指す子もいます。そこになかなか応えきれないというのが現状です。昔のように学校の部活に全員入って頑張るといふ時代からずいぶん変わってきているのが現状かなと思います。そういう中で牧之原市だけではなくて、近隣市町、県内どこも、部活動の地域移行に関する課題が山のように出てきて、都市部のようないろんな団体を抱えていたり指導者が充実しているところもあれば、本当に大変なところもあったりとかする中で、牧之原市として、どういう形で取り組んでいこうかっていうことを今後検討を重ね、本当に子どもたちとか保護者とかのニーズに答えられるような、より良い形で部活動を子どもたちができるよう進めていきたいと思います。

○杉本市長

私の個人的な考え方ですけども、自分が中学生の時、今から40年、50年前、中学校3年間の部活と高校のときの3年間の部活動はすごく一生に残るっていうか、子どもたちの健全育成であるとか、人間形成であるとか、自己肯定感を持ったり自信をつけたり、すごく重要だというふうに思います。学校の勉強だけじゃなくて、それを頑張っているっていうところを勉強はできないけど、これは頑張っているなと先生が認めてくれる、それってすごく励みになります。子どもたちにとって。学校現場だけの教育だけやっている先生は俺のこと何を見てくれない、俺、これだけやっているけど、こっち知らないってなるのも、いかがかなって僕は個人的に思うので、何らかの形で地域移行しても、先生は何らかの形でどこかに関わるといふのは必要じゃないかなと思います。先生もその部活動やりたくて、さっきのアンケートの中でも4割の先生は関わっていきたいってあるじゃないですか。ですからそこは、やりたい先生は思いっきりやらせてあげればいいと思います。先生もそれぞれ個性があっていいと思う。一緒に染めちゃうのではなくて、いろんなカラーがあって、いいところを引き出してあげるようなことも、必要だなと思うし、子どもたちのいいところを育てていくということも必要かなとそんなふうに思いました。

地域移行と学校生活の関わりとか、受け皿となる地域団体および指導者の確保であるとか、移動手段の確保、そして予算の確保。私が思うのは先ほど山内さんから出ましたけど、僕もちっちゃい学校だったので、野球と剣道とか科学部しかなかった男子はね、女子はソフトボールとバレー部しかなかったという中で選ぶんですね。そういうところだったので逆に大きい学校ってすごく僕は羨ましくて、いろんな選択肢があるのでいいなって思っていました。牧之原市の中で一つのスポーツを選べるって部活を選べるっていうのはすごくいいことだと思

います。それからさっき出てきたアクションスポーツって相良高校でやっているようなサークル活動、部活とは別に1週間に一度違うことをやってみるっていうのも、将来の可能性を引き出す中ですごく大事なことだな。1回剣道に入っちゃったらずっと剣道でなきゃいかんって言うよりも、アクションスポーツの世界入って、いや、俺こっちの方が向いているよっていうのが、あると思うんです。ですから、そういうチャンスを与える、そういう中で、アクションスポーツだけじゃなくてスポーツをやっていたけど、吹奏楽をやってみたり。なんかこの歳になってすごくうらやましいなと思います。ピアノ弾けるってすごいなとか、楽器が一つ弾けるっていいなとか、トランペット吹いてみたいなとか、サクスを吹いてみたいな。そういうことがあったらもっと楽しい人生になるんじゃないかって思うので。

確かに1等賞をとって全国大会に行ったらアスリートになる、それも一つなんですけど、いろんな事をやってみて、楽しんでそして人間形成に結びつけていくっていう、それも重要だなって思うのでそういった意味でこの検討委員会って非常に重要だと思います。

ということで皆さんからいただいたご意見もしっかりと踏まえて、これを検討委員会で進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後に今日のテーマ以外に、もう一つ、ひとことふたこと言ってみてほしいな、言っておきたいというふうに皆さんがいらっしゃいましたら、ご意見いただければありがたいと思っておりますがいかがでしょうか。

それではお時間もきましたので以上で、本日の総合教育会議を閉じたいと思います。それでは進行を事務局の方にお返しをいたします。

5 閉会

○源間課長

それでは最後に一点だけご連絡をさせていただきます。本日の会議につきましては、会議録を作成することとなっております。後日、内容の確認について皆様のご依頼をさせていただきますので、お手数をかけますが、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。